

① 工学研究科 2026年度

② 入試区分

工学研究科博士前期（Ⅰ期）

③ 出題科目

英語

④ 出題の意図

科学・工学・産業技術に関する英語の語彙力・読解力・要約力・作文力を多面的に評価する。以下の各設問では、専門的内容を理解し、適切に英語で表現・運用する力を確認する。〔Ⅰ〕受験者の専門分野に関する英語表現力、論理的説明能力、および研究内容の理解度を評価する。

〔Ⅱ〕学術英語における基本語彙（論文構成要素）の理解度を評価する。

〔Ⅲ〕英語で表記された数式・記号の意味を理解する能力を評価する。

〔Ⅳ〕英文読解力および与えられた内容に基づく論理的英語表現力を総合的に評価する。

〔Ⅴ〕研究活動に必要な実用的英語運用能力（メール作成、依頼表現、礼儀）を評価する。

【英語】

[I] 次の (1)～(5) について指示に従ってすべて回答せよ。

(2)～(5)については、できるだけ詳しく説明すること。

(1) あなたが現在行っている卒業研究の題名を英語で書け。

(2) あなたの卒業研究の意義や目的について英語で説明せよ。

(3) 卒業研究で取り組んでいる研究の実験方法について英語で簡潔に説明せよ。

(4) 大学院博士前期課程で取り組みたい研究テーマや目的について、卒業研究との違いや発展している部分が明確に分かるように英語で説明せよ。

(5) あなたが博士前期課程を修了後、取り組みたいと考えている仕事について、今持っているイメージを英語で答えよ。

[II] 次に論文でよく使う項目を日本語で書いている。(a)～(j)を論文でよく使用する言葉の英語訳として最も適しているものを(1)～(14)から選び記号で答えよ。

(a) 結果 (b) 考察 (c) 背景 (d) 参考文献 (e) 方法

(f) 謝辞 (g) 結論 (h) 手順 (i) 要約 (j) 序論

(1) Procedure (2) Abstract (3) Result (4) Author (5) Reference

(6) Citation (7) Background (8) Method (9) Acknowledgement (10) Analysis

(11) Conclusion (12) Figure (13) Discussion (14) Introduction

[Ⅲ] 次の(1)～(7)の英語表現を数学的表記(数式)に変換し、計算せよ。

回答は例に従って 数式と英語の両方で示すこと。

例 問 One plus one 答 $1+1=2$ One plus one equals two

- (1) Three times four
- (2) Three divided by four
- (3) Four minus three
- (4) Three to the fourth power
- (5) One third plus one quarter.
- (6) Seven twelfths divided by seven eighths.
- (7) The square root of two hundred fifty-six

[IV] 次の英文を①～⑩の英文を日本語に翻訳せよ.

①

②

③

④

【 該当部分は著作権の関係で省略します。 】

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

[V] 以下の①～④の指示内容に従い、英語で手紙を作成せよ。

(①～④以外の部分は内容に制限はない。)

- ① 宛先：John Brown 博士
- ② 自分の自己紹介を書く。（ただし、4 文以上 10 文まで加点）
- ③ Brown 博士は、都市設計の専門家で [IV] で示した内容に関連した研究
をしている。Brown 博士にスマートシティーに関する質問をせよ。

(質問は、4 つまで加点)

- ④ 挨拶とあなたの名前、所属、あなたの大学の住所なども適宜書くこと。

住所は 日本国 香川県高松市浜ノ町 8 番 53 号

2026 年度 大学院工学研究科 博士前期課程Ⅰ期

英語 解答例

[Ⅰ]

受験者自身の卒業研究、大学院で取り組みたい研究、修了後に取り組みたい仕事について記述する問題であるため、解答は受験者によって異なる。

設問の指示に従い、内容が適切に英語で表現されているものについて、適宜加点する。
要件不足や誤記等については減点せず、適切に表現されている内容について加点する。

[Ⅱ]

- (a) (3) Result
- (b) (13) Discussion
- (c) (7) Background
- (d) (5) Reference
- (e) (8) Method
- (f) (9) Acknowledgement
- (g) (11) Conclusion
- (h) (1) Procedure
- (i) (2) Abstract
- (j) (14) Introduction

[Ⅲ]

- (1) $3 \times 4 = 12$ twelve
- (2) $3 \div 4 = \frac{3}{4}$ three quarters
- (3) $4 - 3 = 1$ one
- (4) $3^4 = 81$ eighty-one
- (5) $\frac{1}{3} + \frac{1}{4} = \frac{7}{12}$ seven twelfths
- (6) $\frac{7}{12} \div \frac{7}{8} = \frac{2}{3}$ two thirds
- (7) $\sqrt{256} = 16$ sixteen

[IV] 訳例

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

【該当部分は著作権の関係で省略します。】

[V] 解答例・採点方針

以下の内容が含まれていれば、適宜加点する。

要件不足や誤記等については減点せず、適切に表現されている内容について加点する。

- ・ John Brown 博士を宛先としていること。
- ・ 自己紹介が英語で書かれていること。4 文以上を対象とし、10 文まで加点する。
- ・ スマートシティに関する質問が英語で書かれていること。4 つまで加点する。
- ・ 挨拶、氏名、所属、大学の住所等が適切に記載されていること。